

【第4回】 コロナ禍と地球市民教育の課題

Series IV: The Covid-19 pandemic and an agenda for global citizenship education

質疑 (Discussion)

これからの国際教育について

質問：世界の出入国管理や疫病対策が緩和された後は、もとのように越境留学が復活するのか、または変質するのか。今の ICT 化は緊急避難なのか、次のメインストリームなのか。何らかのベストミックスがあり得るのか。仮に ICT が次のメインストリームとすれば、ICT の世界の方がコントロール、検閲などが入りやすく、個人の個性を伸ばす「成長」よりも、型にはめることになりはしないか。下手をすると多様性が失われる、というおそれはありませんか。

回答：越境留学も ICT も、国際教育の方法論にしかすぎません。教育の目的に照らし合わせて、より効果的な環境整備と方法論の工夫をすることが、今後も変わらず重要だと考えます。＜堀江＞

質問：米中の政治、経済的デカップリングの潮流に代表される反グローバル化にグローバルな国際教育はどのように対応していくべきかお伺いしたいです。

回答：直接的に政治・経済に係る議論を授業の中に持ち込むことよりも、身近なテーマを取り上げることを通じて、社会的、経済的に弱い立場に置かれている人たちに共感して、共に生きられるような生き方を模索するような教育手法を取り入れていければと考えます。具体的な例として、日本国内の定住外国人、外国人労働者が置かれている実情から学び、海外における移民・難民が直面する課題などに問題意識を広げて考察できるような指導をしていくことが望ましいと考えます。＜芦沢＞

*その他、コロナ禍以降、国際教育はどのように変わっていくのかといった趣旨のご質問が多数ございましたが、代表して上記2つのご質問にお答えいただきました。

9月入学について

質問：これを機に9月入学の話が盛り上がってきていますが、9月入学にシフトすることによってグローバル化を進めるという風潮について、お二人はどのように考えられますか？

回答：要は、第一に、専門家の意見のみならず、現場の声を傾聴する努力が払われているかであり、第二に、そうした声を踏まえて専門家が討議をするかどうか、第三に、改革実施の場合は移行期として現場への負担が当然ながら想定され、それを補う予算と

人などのリソースを公的に保証するかどうか、だと思います。また、国際教育の課題としては「グローバル化を進める」というよりも、「グローバル化」を相対視できる市民を育てていくという視点が大切であると捉えています。〈永田〉

大学と小中高では、9月入学によってもたらされるメリットとデメリットが異なってきます。まずはそこを分けて議論する必要があるがあると思います。大学の場合は、国際流動性を高めることを目的とするのであれば、4月入学と9月入学の併用、クォーター制の導入などが効果的なのではないかと思います。一方、小中高については、義務教育制度を含め、国としての学校制度をどうデザインするかという大きな問題になります。後ろ倒しの9月入学によって義務教育開始時期が遅くなるなど様々な課題があり、すぐに最善解を出すのは容易ではないと思います。また、小中高の場合、学年暦のずれが留学交流を阻害しているということはありませんかと思っています。〈堀江〉

オンライン教育について

質問：1年生、2年生...といった低学年のお子さんのオンライン教育は困難さが上級生と比べるとあると思うのですが、低学年のお子様への教育に関してはどのような工夫をされていますか？

回答：オンライン学習そのものへの抵抗感という意味では高学年も低学年もあまり差はないようですが、現場の先生によりますと、オンライン学習というより、自分からパソコン画面に向かわなければいけないという意味で、低学年の児童はまだ自主学習の習慣が身につけていないため、自律的にオンライン学習に向かうということの難しさがあるようです。また、PCを扱うスキルがまだ弱いので、PC操作を習得できていないうちには学習が滞るということ、タイピングができないので、表現に制約があること。ということから、保護者の方により多くのフォローをお願いすることが必要になっています。〈堀江〉

質問：コロナ禍に対応するため、教える側もある一定のICTスキルを身につけなければ授業もできない状態になっています。今ここにいる先生方はICTスキルがあるから参加できているのであるから問題ないとしても、それ以外の教員についての研修・トレーニングはどのようになされるべきだとお考えでしょうか？これは個々の教える側の「創意工夫」「個人の資質」では済まされないことだと考えています。

回答：その通りだと思いますが、学校で使えるICTの仕組み（ハード・ソフトとも）は、かなりインターフェイスが良くできていて、それほど専門的なトレーニングがなくても導入可能なものが多いです。試行錯誤をしながら、教員間で教えあつて全体で向上

していく環境があれば、それほど難しいことではないと思います。〈堀江〉

意見：子どもの社会で、親世代の貧富の差が深刻な影響をもたらしています。都市部では公園や校庭が自由に使えず、自然の中での遊びでさえ、お金を払ってキャンプに行っている。コミュニケーションやチームワークは、お金を払って学ぶことになっている気がします。貧困層では、これらの機会がないまま、今回のコロナ禍に突入しています。オンライン教育でも、親のスマホしかない、ルーターがない、自分の部屋もなく、兄弟がいると親のスマホさえも使えない、など散見します。